

令和2年度第4回蒲郡市子ども・子育て会議 議事録

日 時	令和2年10月22日(木) 14:00から16:10まで
場 所	蒲郡市役所 303会議室
出席者	(委員) 18名出席 ※別紙出席者名簿のとおり (事務局) 子育て支援課: 次長、主幹、課長補佐、課長補佐、指導係長、主事
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和2年度第4回蒲郡市子ども・子育て会議 次第</li> <li>・ 資料1 令和2年度第3回蒲郡市子ども・子育て会議 議事録について</li> <li>・ 資料2 蒲郡市保育園グランドデザイン(案)について</li> <li>・ 資料3 令和2年度蒲郡市子ども・子育て会議の日程について</li> <li>・ コンシェルジュだより</li> </ul>

議事: (進行) 事務局 高橋晃市民福祉部子育て支援課長

- 学校教育課長(代理飯島) 欠席
- 健康推進課長(代理岡本保健師) 欠席
- 資料の確認

1 あいさつ

(渡辺会長) 皆様改めまして、こんにちは。私の友達のお孫さんが来年度入園します。どこの園を選んだかという、住んでいる学区ではなくて、違う園を選ばれました。理由を聞いたところ、お嫁さんがその園の教育方針というか、保育方針が気に入って選んだということでした。それから、偶然かつての同僚に出会ったので、お子さんをどこに入れているのか聞いてみたら、やはり住んでいるところではなくて、その園の保育方針がうちの子どもに合っているから選びましたということを言われました。それでちょっと思い出したのは自分の甥っ子も自分が卒園した幼稚園に入っていたということを出して、やっぱり今の保護者の人たちは、本当に多様な考え方をすることで、特に学区にこだわっていないんだなということを改めて気づきました。

蒲郡市の保育園のグランドデザインを考えていくときに、前回、河合先生もおっしゃっていたんですけど、保護者にとって、多くの選択肢があるってということがとても大きなポイントだなということを改めて思いました。今回はそんなことを考えながら検討していけたらいいなと思っています。今回は中学校区単位で考えていこうということになりましたので、今日はそれぞれの中学校区ごとに考えていきたいと思います。前回のように忌憚のないご意見をたくさんいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

## 2 議題

---

### (1) 令和2年度第3回蒲郡市子ども・子育て会議 議事録について

---

#### 質疑応答

---

(河合委員) 差し替え版を配布させていただきました。自分のことながら、読み返してみますと、本当に余分なことをお話しさせていただいて、これでは分かりにくいと思い、修正させていただきました。赤字のところ、できるだけ私の意図を込めた文章に直させていただいております。差し替えという形で配布させていただきましたので、よろしくお願いいたします。

(渡辺会長) ありがとうございます。ニュアンスについては大きく変わるものじゃありませんよね。他にありますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、議事録については修正をお願いします。次の議題に移ります。

### (2) 蒲郡市保育園グランドデザイン(案)について

---

(蒲郡市保育園グランドデザイン(案)について事務局白井から説明)

#### 質疑応答

---

(渡辺会長) ありがとうございます。今の説明で、何かご質問やご意見がありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

それでは、大塚中学校区から順次検討していきたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。それでは、事務局の方、順次説明をお願いいたします。

#### ●大塚中学校区

---

(大塚中学校区について事務局白井から説明)

#### 質疑応答

---

(渡辺会長) 大塚中学校区は、大塚西と大塚の二つの園があるのですが、これを一つにしていこうというお話だったと思いますが、何かご意見があったらお願いいたします。

(山下委員) 10何年前にこの大塚地区の金融機関の支店長をしておりました。大塚は西と東で分かれています。地区性がある。これを一つにまとめるのはなかなか難しいところがあるかなという気もします。個人的には、将来人数を見ると一つにしてもよろしいのかなと思いますけど、場所的にどっちかに偏った場所になったとき、通うためのバスなどを考えていけば可能かなとも思いますけど。でも、なかなか困難な面もあるかなという気がするのですが、その辺は、もうすでに考慮に入れた上で統合するっていう形になるのでしょうか。

(事務局高橋) ここでは将来的な、2040年の予想を立てて、子どもはこのぐらいの規模になりそうだというようなことをお示ししております。そして当然園舎もかなり古くなっていますので、建て替えのタイミング、これはいつになるのかまだわかりませんが、

その時に一つに統合ということを考えてはどうだろうかという、地区のデザインの案ということです。

基本的に通園されている方は、車で送り迎えというのが大半を占めていますので、この地区に限って言えば同じ大塚地区から車で通うっていうことを考えたときに、保育園がどこにあってもそんなに遠いというような印象はないかな、というふうには思っております。

このグランドデザインはどこに建てるとか、いつ建てるということではなくて将来にこの地区にはどういう形で保育園があるのがいいだろうかと、その辺ぐらまでの検討内容になるかなと思います。

(渡辺会長) 私も大塚小学校に勤めたことがあるので、この大塚保育園と大塚西保育園って両方も地区の外れにありますよね。例えば大塚保育園の方に統合するとなるとちょっと大変というか地域の中心にあるほうが望ましいのではないかと私も思ったのですが。そういう具体的な場所は今回考えていかずに、数というか量を考えていくっていうことでしょうか。

(事務局高橋) 具体的な配置、公共施設の配置ということになりますと、公共施設マネジメント実施計画というものが市にございまして、それに基づいて、地区でのワークショップを行いながら地区ごとの公共施設の今後の利用計画というのを決めていくっていうこと、今年是一年休止していますけど、そういった計画というものも進んでおります。

グランドデザインは、そういった各地区での検討の大元になるものと言えらると思います。これから大塚地区で今後の公共施設、小学校、中学校、公民館、保育園、これらをどうしていくのかを検討する時の一つ指標になるものと考えています。具体的な位置とか、他の施設と複合化をしていくかとか今の場所に建て替えるのか別の場所がいいのか、そういうことについては、公共施設マネジメントの実施計画に基づくワークショップなどで地区の方と話し合っていくという形になります。

(渡辺会長) 保育園用地は借地だということですが、賃借料はどのくらい払っているのでしょうか。

(事務局白井) 大塚地区ですと1園当たり、おおよそですが年間200万円ぐらいです。

(岡田部長) 考えていくにあたって、大前提となりますこの資料2別紙の最初のページのところで、もし委員さんの中で、この基準じゃおかしいぞというところがあれば、そこについても意見をいただきたいな、と思っています。ここでは、1人当たり概ね80人から130人程度となるような施設を大前提としまして配置等をどうしていくか、組んでございます。そうした中で、この基準そのものがおかしいのではないかとということがあれば、そこもご意見いただきたいと思います。

なぜこういった数字にしたかと言いますと前回の会議の時に、適正人数というのは少な過ぎても多過ぎてもいけないよっていうようなご意見を委員さんの方からいただいております。それから地域性があるというところである程度の幅を持たせる形、そうしたことで前回の意見を踏まえまして、事務局として0歳児から5歳児まで、クラスを組んでいったときにこれぐらいのところ適正な規模であるだろうというふうにご考

たものでありますので、ここのご異議がありますと、後のところへも影響して参りますので、もしよろしければ、こういった形で組んであるということの前提で、お話を進めていただきたいと思います。

(渡辺会長) ここのご異議のところで配置の検討にあたって三つの要素が示されていて、そのところで何かご意見があるなら先に伺っていきたくと思いますが、どうでしょうか。

河合先生どうですかこの、概ねの80人から130人の規模ってというのは。

(河合委員) 現場としては大変望ましい人数かと思えます。

(渡辺会長) 鈴木委員はどう思われますか。

(鈴木委員) 私もそう思います。ただ、人数が出てしまったら駄目なのかとか、そこより下回ったら絶対に駄目なのかっていうと、そうではなくて、建物の規模もあるでしょうし、園庭の広さとかもあると思います。どのあたりを基準にするって言ったら、おおよそ、そのあたりの規模でどうでしょうか、という気はしております。

(津田委員) 保護者の立場からしまして、先ほど車で送り迎えをするっていう話がありましたけど、東の方に通勤する方、豊川や豊橋の方に通勤する人にとっては、蒲郡市の中で大塚中学校区が一番東側にありますので、西側の人は通り道になります。

今は低年齢児の受け入れをしていないから、ニーズがこれだけ少なくなっていると思うのですが、もしここに、それなりの設備と充実したサービスがあれば、東に向かう保護者にとっては、通勤途中に大塚の保育園で子どもを車から降ろして、東方面に通勤に向かうというのは自然な流れになると思うので、ランドデザインで2040年にかけて建て替え統合を進める中で、その需要は増えるのではないかなというふうに思いました。大塚中学校区に住んでない人でも、三谷中学校区の人でも、東に行く人にとっては、非常に利用しやすい場所にあると思います。

(渡辺会長) ありがとうございます。よく考えたら東に通勤する人にとっては一番いいところかもしれないですね。その他何かありましたらお願いいたします。

大塚中学校区では、人数のこともいろいろ考え合わせて、大塚西保育園、大塚保育園の二つを統合していくという案ですが、そういう方向でよろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。

では次の三谷中学校区の検討に入りたいと思います。

## ●三谷中学校区

(三谷中学校区について事務局白井から説明)

### 質疑応答

(渡辺会長) 三谷西保育園と三谷東保育園を将来統合するとした場合、園児数が160人ぐらいになってしまいそうで、先ほどの規模からでいうと少し大きくなってしまいか、という話でした。

ただ三谷東保育園の敷地が一番広いということ、高台にあるので、津波とか高潮の心配は全くない。一方で三谷西保育園は本当に海のすぐ近くなので心配っていう、そういうことをいろいろ考えての提案だったと思います。

三谷東保育園のところも三谷西保育園も割と地区の端にあるわけですが、三谷東保育園の方にもし移るとなると、本当に端っこだなんていうことはと思いますが、そういうことは今回は関係なく考えていきたいと思っておりますのでお願いします。

それから、一つ質問ですけど、保育園の園舎っていうのは、二階建でも三階建でもよいのですか。

(事務局高橋) 将来の形っていろいろあると思うんですね。保育園単独で建てるという場合もあるし、他の公共施設と一体になっていくっていうようなことも考えられるんですね。例えば学校と一緒にする場合もあるだろうし、公民館と複合化するとか。それぞれの形態によって、建設の形は変わると思います。鉄筋で作る場合もあれば木造で作る場合もあるということで、蒲郡の保育園として具体的にどういう形にするというのは決まっております。

(岡田部長) 保育園は今後、どこかの施設とくっつく、隣り合わせになるということがございます。塩津地区では小学校と同じ敷地内に作るということですが、保育園は、園舎・園庭については児童福祉施設で基準が決まっておりますので、保育園として作られていない施設に入り込むということではないということです。

三階建のことでありますが、子どもの施設、保育園としてはちょっと厳しい。いいとこ二階建、できれば平屋建てが望ましいと考えております。その保育園の施設そのものでいいますと、現在コロナウイルスの感染予防で密を避ける必要があります。コロナは暫くしたら収束していくというふうに思っておりますが、インフルエンザとか、保育園の中の感染症、そういったところも考えながらやっていく必要があると思っております。ある程度の、部屋の広さを確保しながらやっていくというような考え方もこれから必要ですし、できるだけ広い環境で保育をしていくのが子どもにとってはいいと思っております。

ただ、施設によってはやはり一部に集中しなければいけないところについては、2階建てとかそういったところでの保育もあり得るということになります。国の方では最低基準、児童1人当たりの最低基準が決まっておりますので、それは当然守っていくと。市としても、ただその最低基準でいいのかというところは、それよりも広くとれば、その方が望ましいと思っております。あまり広すぎると子どもたちの行動にとっても支障が出て参りますので、一定規模、現在のところぐらいでいきたいなというふうに考えております。

(渡辺会長) ありがとうございます。その他何かありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

三谷中学校区はもう一つあさひこ幼稚園っていうのがありますが、これは今回のランドデザインでは触れていかないということで、三谷西保育園と三谷東保育園の2園を統合していくという案でしたが、よろしいでしょうか。

それでは次の蒲郡中学校区をお願いいたします。

## ●蒲郡中学校区

(蒲郡中学校区について事務局白井から説明)

## 質疑応答

- (渡辺会長) 蒲郡中学校区についてはこの五つをそのまま存続していくという話でしたが、何かありましたらお願いいたします。
- (津田委員) 蒲郡中学校区の2040年時点の地区内ニーズ予想について、2020年と比べて減少予想されていますけど、こちらはどのような前提のもとで予想されているのかお伺いしたい。
- (渡辺会長) 525人から442人に減るところですね。
- (事務局高橋) 検討資料の中にある表の2020年の3月時点の数字と2040年のニーズ予想とは少し対象が違って、一緒に見るとわかりにくくなって申し訳ないんですけども、この2020年3月っていうのは、この時点で各保育園の園児数で、他地区から来ている園児も含まれた数です。一方、2040年のニーズ予想っていうのは、単純にこの地区の2040年の子どもの数の予想に入所率を掛けたら保育ニーズについてこのぐらいだろう、というものです。2020年3月で525人と、この地区は園児が多いのですが、これは他地区から通園している子ども138人を含んでいるからです。ただ将来のニーズ予想についても他より子どもの多い地区であるということとは変わりないです。
- (渡辺会長) そうしますと、2040年の予想が442人ですがこれに加えて他地区の子どもが通ってくるということですね。
- (事務局高橋) 今後、公立の保育園が各地区で低年齢児とか延長保育がもっと充実したとしても、みどり保育園や木船幼稚園等については、その園を指名で他地区から通ってくる方がいると思います。
- (渡辺会長) みどり保育園の河合先生はどうでしょうか。
- (河合委員) ありがとうございます。想像するのがなかなか難しい区域ですが、ニーズはあると思います。みどり保育園の周りは土地開発をされて、新しい住宅ができるという傾向にある状況なんですね。若い世代の方が住みやすい地域として選択される雰囲気を持っている地域なので、保育ニーズはあると思います。一方で、資料にありますように今の府相保育園の位置が災害等に弱いというところ、ここだけは優先的に考えていただけたらと思います。保育所の個数でいえば、これくらいの数が必要なのかな、と感じております。
- (山下委員) 7ページの「今後のあり方」のところで「案1」とあるし「案2の特徴」とあるのですが、案は一つしか付いていない。他の地区のページ、4ページを見ると「案」となっている。ほんとは案1とか案2とかあったけど、ここに出してきたのはどの地区も一つだけになっている。そういうことですか。
- (岡田部長) 当初、子育て支援課は、いろいろなプランを考えて私のところまで持ってきました。様々な案を持ってきたのですが、市として、まず子育て支援課がどういう将来像を目指していきたいのか、保育園の理想像はどうなのかというところで、この資料2別紙の最初のところの基準を作って、それに合わせて考えてみたら、他の案が削られていったということでもあります。

ただ、この会議の中で委員の皆さんから、いやこういう案ではなくて、さらにもうちょっとこういう配置とか、こういう数が必要じゃないかという案をいただければ、それもこの中に加えた形で、最終的なグランドデザインにしていくということになります。

すみません、私が差し戻したことで、修正誤字がそのまま残ってしまいました。申し訳ありません。

(渡辺会長) 6ページの府相保育園のところですか。ここに、小学校などの公共施設敷地内への移転について、と踏み込んだ記入がありますが、こういうことは大体決まりつつあるということでしょうか。

(事務局高橋) まだ具体的な決定事項は何もありませんが、この府相保育園はそれなりの規模があります。今は高潮の浸水区域にあるということで、建て替えのタイミングで、どこかへ移転しなければいけない。ただこの地区は、保育園の敷地を確保するだけの場所というのは、はっきり言って無いと思います。それに、高潮のことを考えるとJRの北側でないといけません。そうすると、空いている土地はほぼない。今ある公共施設の敷地内へ、ということで書かせていただいています。イメージとしては竹島小学校敷地です。そういう可能性はあるよね、というような気持ちで書かせていただいたと、いうことです。

(渡辺会長) この地区は公共施設マネジメントのワークショップはもう済んでいる地区でしたか。

(事務局高橋) ワークショップも地区で区切ってやっているのですが、ここは蒲郡南部地区と呼んでいてワークショップ自体は終わっております。ワークショップでまとめた意見をこれから地区個別計画というものにしていくことになります。まだ蒲郡南部地区の地区個別計画はできておりませんが、このワークショップのなかでは竹島小学校敷地に府相保育園を建てる、という内容になっております。これは私どもの考えとも一致している、というふうには思います。

(渡辺会長) 思っていることがあって、もちろんこの地区は現状維持でいいと思うし、こんなこと難しいのかもしれないなと思いつつ、電車を使って通勤される方もいらっしゃるんで、例えば蒲郡駅のところに、保育園があってもいいなって、駅の中にあるのをいいなってちょっと思っているんですけど。そういう大胆な考え方も、女性が活躍するため、働き続けていくために、大事だと思いますよね。

(岡田部長) ありがとうございます。今会長が言われたように、他の市、特に都会部のところでは、駅に保育所ってところがあります。そのやり方もいろいろありまして、駅に子どもを預かるだけの場所を作って、そこから各保育園に子どもを送るっていう、子どもの受け渡しだけをやっている市もあります。ただ、そこは、郊外で子どもが少なくなって施設に空きがある。中心部の方は満員の施設である。その待機児童対策のために郊外の施設を使っているところもあります。

蒲郡だと、南部保育園なら駅から近いところにある。そういったところでお子さんを十分に受け入れられる体制が整っていればいいかと思いますが、いずれまた、そういう施設が必要かどうかというような検討をしていくこともあるかもしれない、というように思っています。

ただ、この会議でいただいた意見というのはそのまま議事録にも残りますし、そうした意見をいただいたということで、今後、受けとめていきたいと思っております。

(渡辺会長) ありがとうございます。本当にいろんな可能性を考えていけるといいなと思っております。その他何かありますでしょうか。

では、蒲郡中学校区は五つの園を維持ということではよろしいでしょうか。

次は中部中学校区をお願いいたします。

## ●中部中学校区

(中部中学校区について事務局白井から説明)

### 質疑応答

(渡辺会長) 中部中学校区の説明につきましては、三つあるところを二つにしていくという説明だったと思いますが、何かありましたらお願いいたします。

言葉尻をとらえて申し訳ないですが、「今後のあり方」の概要のところ、3園を2園に集約していくとなっています。「統合」ではなくて「集約」となっている。二つを一つにするということではなくて、三つを二つにするという意味ですかね。

(事務局高橋) この地区については集約という言葉の方がいいのかな、と思っております。今3園ございます。このまま3園ですと少しキャパとしては過大になっていくのかな、というところもございますので、これをどのような形になるのかはまだわかりませんが、2園規模で十分に保育自体はやっていけるのではないかと考えています。

特に西部地区というのは、児童の数自体は、かなり少なくなっていくとは思いますが、ただ、この地区はかなり広範囲に及びますので通園距離などを考える必要もあるかと思いますが、どこにどういう保育園があるべきなのかというのは今結論が出ているものはないです。規模としては二つというような形で案を出させていただいております。どの園とどの園をくっつけますという内容ではないです。

この地区も地区のワークショップが始まっていますが、今は一旦止まっています。今後この地区の方も、小学校、中学校、公民館とか含めて、施設の配置案も検討していただく形になるかと思っております。

(岡田部長) 他の地区でも同様ですが、二つしかないものを一つにしていくところは「統合」というような表現を使わせていただいております。三つ以上あるところが幾つになるかというところで「集約」という言葉を使わせてもらっています。保育園にもともと園区はないんですが、今回考えるにあたっては、地区単位で、幾つあればいいだろうということを考えていくことになりますので、どの園とどの園をくっつけるというところではなくて、この地区内にいくついるのか、これが保育園の適正規模なんだ、というところで「集約」というような表現を使わせていただいたというところでありまして。

(渡辺会長) やはり学校の規模適正化のところでもこのところがきっと問題になってくるところじゃないかなと思います。「どの園とどの園を」という点はまだわからない、三つを二つに集約していく、と考えていけばいいですね。

何か他にありますかでしょうか。よろしいでしょうか。

ここは本当に西部地区っていう、ちょっと特殊な地区をもっているんで、今後のワークショップでいろんな意見が出てくる難しいところじゃないかな、と思っていますが、またそちらとも合わせて検討していただきたいと思います。

では、この中部中学校区については、三つを二つに集約していくということによろしいでしょうか。

それでは、塩津中学校区をお願いいたします。

## ●塩津中学校区

---

(塩津中学校区について事務局白井から説明)

### 質疑応答

---

(渡辺会長) 塩津北保育園については、今年度中で廃園されることは決定していることで、この地区は塩津保育園と鹿島こども園、この二つが残っていくという説明だったと思います。何かありましたらお願いいたします。

塩津地区のワークショップは最初に行われていたと思うんですけども、移転のスケジュールみたいなのはもう決まっているのでしょうか。

(事務局高橋) 塩津地区につきましては、公共施設マネジメントのワークショップが終わり、地区個別計画ができております。今後の具体的な進め方として基本計画を作っていくことになっています。基本計画の作成は来年度の予定です。基本計画ができたなら、計画に基づいて各施設の更新を行っていく、という形になります。

塩津地区の個別計画では、保育園につきましては、塩津小学校敷地に保育園を移設というか建て替えるという計画になっております。我々のこの案につきましても塩津については公立保育園1ヶ所という案ですので個別施設計画とも合致するものと思っております。

(渡辺会長) 塩津地区ではワークショップも済み、地区の個別計画も作成されていて、来年度基本計画を作成して、その中の計画では保育園は塩津小学校内に移転するというような、そういう話になっているそうです。

この地区につきまして何かありましたらお願いいたします。

安全が確保されていると言ってもなるべく早く、塩津保育園は移転されるといいなっているふうに思っています。よろしく申し上げます。

それではこの塩津中学校区につきましては、塩津保育園と鹿島こども園の2園を維持していくということによろしいでしょうか。

それでは、形原中学校区の説明をお願いします。

## ●形原中学校区

---

(形原中学校区について事務局白井から説明)

### 質疑応答

---

(渡辺会長) ここは形原北小学校と形原小学校のある形原中学校区ですが、公立保育園は三つを二つに集約していくという説明でした。何かありましたらお願いいたします。

形原南保育園は、地図からは海から近いように見えるのですが大丈夫ですよね。津波などは。

(事務局白井) 高台にあるので大丈夫と思われます。

(渡辺会長) 形原北保育園には西部子育て支援センターがあって、ここにも書いてあるように子育ての拠点になっているということですよ。

でも、老朽化しているってということで、建て替えは、していかなきゃいけないところですね。

何かありましたらお願いいたします。

それでは、形原中学校区につきましては、公立保育園三つを二つに集約していくということでしょうか。

それでは最後の西浦中学校区の説明をお願いいたします。

## ●西浦中学校区

---

(西浦中学校区について事務局白井から説明)

### 質疑応答

---

(渡辺会長) 西浦は西浦保育園、西浦小学校、西浦中学校と一つの園、一つの小学校、一つの中学校という風に本当に地域の中の保育園だなんていうふうに思っています。ここはそのまま維持していくということですが、どうでしょうか。

西浦地区のワークショップも塩津地区と同じ時期に行われていまして、個別計画もできているということでしょうか。

(事務局高橋) 塩津地区と同じ時期に、ワークショップが行われ、それを経て地区個別計画ができています。来年度、基本計画を作っていくことになっています。西浦地区については、小学校の敷地に小学校、中学校、それから公民館を建設していくという計画です。西浦保育園については、現在のところで維持管理を行って適切な時期に建て替えというような計画になっております。

(渡辺会長) 何かありましたらお願いいたします。

ここの地区も地区個別計画も進んでいるということでしたが、よろしいでしょうか。やっぱり地域に一つ、保育園もあって欲しい、というのが私の願いです。個人的な願いですけど、西浦地区は、保育園は一つ維持されるということでした。よろしいでしょうか。

それでは、今回は7つの中学校区について検討をしてきましたけれど、もう1回全体を振り返って何かご意見がありましたらお願いいたします。

## ●全体を振り返って

---

### 質疑応答

---

(津田委員) 蒲郡の全部の中学校区、その中で今現状ある保育園の数が19(民間保育園、民間こども園含む数)、それが14園に集約・統廃合という形になっていると思いますが、そうすると2040年の時に見込まれる1,682人の園児で14園を割ると1園当たり

大体120人になります。減った保育園の分を他の保育園で受け入れる形になると思いますが、施設上の最大定員としては、この人数を踏まえて統合・集約とか建て替えるという計画になっているのでしょうか。

(渡辺会長) 将来の園児数はほぼ同じくらいなのに14園に減ってしまって大丈夫かということでしょうか。

(事務局高橋) 平均するとそのぐらいの人数になると思いますが、地区によっては100人切るところもあれば、130人をオーバーしてしまう場合もあるなど、様々ですので、建て替え・更新をする際には、その地区に合った必要な規模のものを建てていくというような、形になろうかと思えます。

(津田委員) 子育て世帯の夫婦が蒲郡に引っ越してきたとして、自分の住みたい場所の保育園に行きたいときに、待機児童にならずにそのまま希望通り、入園できる状況が望ましいと思うんですけど、統合・集約の過程でキャパシティが足りない状況にならないためには、どこかを増やさなくてはいけないのかなと思ったんですけど、そこは必要ありませんか。

(事務局高橋) 統合・集約の時に、ということですかね。施設を壊しているときとか建て替える時にということですかね。そうですね。そこはまだ蒲郡では実はそういう経験が無いんですね。今の保育園を民営化したとか廃止したことはありますが、統合して新しい施設を作るとかっていう経験は無いです。ですが、他市では統合が行われていて、そのやり方には色々な手法があるということを知っています。一時的に、別の保育園に移転をしてもらおうということもありますし、新しい保育園を作ってから古いものを壊す、という方法もありますので、その時々状況によって、やり方は異なってくるのかな、というふうには思います。

(渡辺会長) 難しいところもありそうですね。またいろいろ考えていただきたいですね。

(津田委員) そういう時でも余裕がある状況が望ましいかな、と思います。

(渡辺会長) 待機が出なくて、行きたいところに行けるっていう、そういうことで考えていって欲しいってことですかね。よろしく願いいたします。

他にどうでしょう。

(山本委員) 保育ニーズは今後も増加が見込まれているのは重々承知しているところですけども、ご家族によっては、その働き方もいろいろあると思いますし、同じ仕事をずっと続けることも可能でないこともあるのかなと思ひまして、いろいろな選択肢があるのかなと思います。中学校区によっては、幼稚園型のところもあるし、保育園のところもあるということですけど、例えば、西浦地区や大塚地区ですと、保育園しかないという形です。私はもともとは豊橋の出身ですけども、多くの幼稚園や保育園がこども園化をしています。ここの保育園・幼稚園がいいなと思って進まれたご家族が、そこに居続けられるような仕組みづくりとして、こども園も増えていくといいなというふうには思っております。

(渡辺会長) ご意見として伺ってことでよろしいですか。

事務局さん何かありますか。

(事務局白井) この次の議題の「公立保育園の民営化について」にも関わってくるのかな、と思ったんですが。

(岡田部長) こども園化はどうか、ということであります。蒲郡では、鹿島保育園が今、認定こども園に変わっております。そして、木船幼稚園さんが、幼稚園型のこども園になっております。

市といたしましては、今まず取り組まなければいけないのは低年齢児の需要増への対応というところで、これまでやって参りました。もともと保育園の方は、0、1、2歳児から受け入れるというのが基本です。そうした中で、幼稚園さんは満3歳から受け入れています、こども園になっていただくと、その下の年齢のところを受け入れていただくことができるということで、幼稚園さんへのアプローチをこれまで進めて参りました。そうした中でご協力いただいたのが木船幼稚園さんであります。保育園に入っていらっしゃる方がそのまま残るところをやるためにはそれに、そのための保育士の配置も必要になって参ります。そうした中で全体の需要を見ながら、こども園化の検討をして参りますが、ただ、今の段階は、まずは低年齢の受け皿の確保です。公立保育園がこども園化するというのは、半分幼稚園になるということです。

幼稚園と保育園をくっつけたのが認定こども園という形になりますので、働いていても働いてなくても、そこへ入れますよというのが、認定こども園です。その場合に、今幼稚園の中でもまだ、キャパは十分にございます。幼稚園に入れるだけの数がある中であえて市の保育園がここで幼稚園を新たに作るのか。全国的な流れは、幼稚園を認定こども園にして低年齢の受け入れを確保するという流れです。そうした中で、今後どうしていくかっていうのは検討課題かな、というふうに考えております。

(渡辺会長) 山本さん、よろしいですか。

(山本委員) 検討を進めていただけたらと思います。

(渡辺会長) ただ、本当に大塚のこと考えると、保育園だけしかないんですよ。西浦もね。

(岡田部長) 幼稚園自体がある地区ない地区ございますが、幼稚園は市内全地区から受け入れを行っています。通園バスもあります。

山本委員がおっしゃったように働き方が変わっても、子どもはそこに残りたいといった要望、ここの地区にはあってここの地区にはないというようなバランスを考えながら今後検討してまいりたいと思います。

(渡辺会長) ぜひよろしく願いいたします。その他何かありますでしょうか。

よろしいでしょうか。ありがとうございました。

それでは、資料2別紙の(3)「公立保育園の民営化について」のご説明をお願いいたします。

## ●公立保育園の民営化について

(公立保育園の民営化について事務局白井から説明)

### 質疑応答

(渡辺会長) 幾つぐらいということですが、将来の配置案では公立保育園は14園となっております

ので、その中で幾つぐらい民営化していけばいいかっていうことを検討すればいいということですね。ご意見がありましたらお願いいたします。

例えば民営化する場合はどういう手順を踏んでいくのでしょうか。相手先に投げかけていくのですか。

(コンシェルジュ白井) 子育てコンシェルジュの白井です。まず、蒲郡は今、宝光福祉さんとあと明睦学園さんに来ていただいたってという経緯があって、その時は既存の施設、今ある建物を使って運営していただくという形をとりました。でも、それが民営化か、と言われたらそれが全てではなく、例えばやっていただけたところを誘致して、その事業者に建物を建てていただくという、そういうやり方もあります。その場合だと国とかの補助金がいちいち建てることができるというメリットがあります。

今、実際に建っている施設が素晴らしければ、そのまま民営の方に運営してもらうのがいいのですが、残念ながら蒲郡は全部ボロボロですので、今ある施設を提供してそこでやっていただくということは残念ながらもう無理だと思います。そうすると、例えば土地を提供して、そこに、その民間事業者の考える子どもたちが過ごしやすい建物を建てていただく。国とか県の補助金を使ってですね、そういうやり方。これは、しっかり決まったわけじゃないんですけど、そういうやり方しかないかな、という思いはあります。そういうことをやる場合は公募をかけます。公募をかけてどこの法人さんにやっていただくかっていうので、検討委員会のようなものを立ち上げて、どこの法人にやってもらうかを決めて、そこから動き出す、という形にはなると思うんです。かなり歳月がかかると思うので、来年民営化しますとかいうことは無理ですので、あらためて計画を作って順次やっていくという形になると思います。

(渡辺会長) ある程度の計画を作り、公募をしていくってそういう形ですかね。公立保育園が民営化する例はたくさんあるのですか。

(コンシェルジュ白井) あります。田原市では公立園をどんどん民間さんにやっていただいているという形になっています。

(渡辺会長) 心配はないってということでしょうか。民営化していこうとすれば、どこかの法人が受けてくれるだろうと。

(コンシェルジュ白井) 魅力のあるところだったら可能でしょう。安定経営を望まなくちゃいけないので、子どもの数が少ないところには民間さんも来てくださらないので、そこはきちんと収益が見込まれる人数の確保、子どもの確保は必要だと思いますが、どうですか。

(河合委員) 一時期、民営化することが全国的にも非常に話題になって、その時には公立の方が絶対いいんだという運動も起きたことも事実ですが、ようやくこの頃は落ち着いてきて、その役割を分担して、大事な市の宝である子どもたちを共に育てましょうという姿勢が行き渡ってきたのかなと思います。

今、収益とおっしゃいましたけれども社会福祉法人の場合は、利益を得るための法人ではありません。ですが、運営費の中で赤字を出すわけにもいきませんので、運営ができる範囲内の中で子どもさんをお預かりし、保育を実践するという形になっています。

一方、企業型になりますと、もうここはやっぱり収益、利益、利潤というものも兼ね

合ってきます。いろんな状況があると思いますが、蒲郡市としてはこういう園を望んでいますという案があると、それだったら応募してみようかなとか、鹿島こども園さんも実績を残されていますので、手を挙げようかという法人は間違いなくいると思います。

最終的には、市と共に子育てに前向きに考えられているところを選択して、ここならば責任を持って、信頼のできる事業所であるだろうというところで決められるかと思っています。

(渡辺会長) みどり保育園さんとか鹿島こども園さんの保育方針が気に入って通っているという方がたくさん見えましたよね。そういう風も入れてきながら、蒲郡市の保育の質を高めていくっていうことのためには、民営化も大事なことです。財政的なことだけでなく、保育の質を高めていくためにも、民営化していきたいという、そういうことでしようかね。

ただ、幾つぐらい、と言われるとね。何かありますか。

(河合委員) 資料2別紙の17ページに示されています中学校区の中で必ず一つは公立を残す、という条件を確保していくと。ここを優先させると、ざっくり言えば二つの公立園があるところの一つが民営化の可能性としてはあるのかなと。そうすると、今全体であと二つですかね。

もう一歩前に進んでいくと、公立園一つのところでも民営化して構わないよ、となるかもしれないですが、これは市民の皆さんのご理解がないと進んでいかない話だと思います。

(渡辺会長) 事務局さんの方から示された公立保育園を中学校区に一つ以上は残していきたいという案。これをクリアしながら考えていくと、河合先生がおっしゃったように二つぐらいであろうってことですね。

(伊藤委員) 地区に公立保育園を1つは残すということですので、蒲郡地区は三つ公立保育園があるので、それだけでも二つは民営化できる。他にも二つに集約する地区なども含めると、全体で四つか五つ民営化できる可能性があると思います。

(渡辺会長) 可能性としては、そういうことが考えられるっていうことですね。

(岡田部長) この事務局が出した、例えば公立保育園を中学校区に一つ以上残す案。こういった考え方についても委員さんの中で、いや、それはどうなのっていうところがあれば、ここでご意見をいただきたいと思います。

こうすると、例えば公立が一つしかないようなところはもう絶対民営化はありえないという考え方にもなりますので、考え方としては「公立保育園があるのが望ましい」とかその程度なのか、それとも、こういうふうに公立保育園を残すというところが、皆さんの合意なのかというところが、また今後の検討、将来的な話ではありますが、違ってくるかなというのがあります。

何でこんなことを言うかという、地元の方、今1園しかないようなところ、西浦とか大塚の方で、うちは公立じゃなくて民間の方がいいんだ、と言われたときに、いや1園は公立を残しますよ、ということで市の方は進めて参りました、というようなお話をしなければいけないのか。そうではなくて、そのときにはまずは民間にあたってみまし

ようと。民間で手を挙げていただけたところがなければ当然公の責任としてやっていかなければならないところでありますので、そういった選択肢を残すのか、というところも含めて、ここに書いた項目、これが正しいのかどうかというところで、もし、おや？というところがあればご意見をいただきたいと思います。

(渡辺会長) このところも検討していきたいということですね。民営化にあたってのこの三つの項目。これについても、これで本当にいいのかということですね。

何かご意見があったらお願いいたします。

一つに残すことの方針として災害時の避難所等の確保ということがありますが、将来はすべての園で0歳児保育から実施していくわけですね。そうすると自園で調理ができる。例えば、災害の時にはそこで炊き出しをしたりできるということでしょうか。

(事務局高橋) 災害時には調理室自体が使えなくなってしまう可能性があります。基本的には災害用の備蓄食料とか支援物資を使うことになると思います。

(渡辺会長) 調理室を使うということではないけど、避難所の確保のために地区に一つは公立保育園はあったほうが良い、という考え方でしょうかね。

(事務局金沢) 避難場所としては遊戯室を使います。遊戯室に避難していただいて、避難物資を配って、そこで過ごしていただくことになると思います。

(渡辺会長) 民間の保育園になったときには、避難所になるということは難しいでしょうか。

(河合委員) 元々みどり保育園は指定避難所でした。その後、民間になった時に避難所から外れたのですが、地域の方が一番身近ですと来やすい場所なので、先生何とかならないか、とお声をかけていただきました。もともと蒲郡市さんで建てていただいたしっかりした建物ですので、災害時の時には使ってください、ということで、地元の方のために何らかの提供ができるように、お水と簡単なご飯は用意をさせていただいております。

(渡辺会長) 別に公立保育園だけでなく民間保育園になっても、避難所を確保していくことは十分できるということですかね。そうしますと、このあたりの考え方はどうでしょうか。

先ほどの山本委員のご意見だと公立の保育園しかない地区ができてしまう。大塚とか西浦のことを考えると民営化も一つの選択肢になるのでしょうか。

(山本委員) 公立でも民営でも、どちらでもこども園化を希望しただけですので。特にどちらが、と思って発言したわけではありません。

(伊藤委員) 民営化を検討するというのは、市の財政的な負担削減も考えてのことですね。中学校区に公立保育園を一つは残すのが適切かどうかという話に関しては基本的には適切だと思います。

ただ、いきなり全部に民営化を投げかけるのは、それはすごくリスクが大きいのではないかなと。例えば、みどり保育園さんとか鹿島こども園さんのときにはすごく上手に、地域からも認められ、受け入れられた。本当に大変な努力をされたと思うんですけども。でもそれが、必ず上手くいくかどうかというところ、すごくリスクはありますよね。

そうするとやはり、行政が検討に検討を重ねてここなら大丈夫っていうところにお

願いをしていく。そういうこと考えると、先ほどの地区に公立保育園を一つは残して、四つないし五つぐらいから民営化を投げかけていく。それが本当に受け入れられて軌道に乗ったなら、例えば地区の一つしかないところも民営化をお願いしてみようとなるかもしれない。そこからでいいんじゃないかと思います。まずは四つないし五つくらいからが適当だと思いますけど。

(渡辺会長) 事務局さん、何かありますか。

(事務局高橋) そうですね。地区に公立1園しかないところを民営化してしまってそれがうまくいかない、となった場合。そうするとその地区の保育所がなくなってしまうリスクは確かにありますので、そういうことがないように各地区に一つは公立の保育園があったほうがいいのではないかと、そういう意図で書かせてはいただいております。そういうことを踏まえた上で、どうやって民営化の可能性を考えていったらいいんだろうか、ということなんです。

例えば、複数の公立保育園がある地域とか、民間保育園がある地域とか、ございますよね。今の話ですと、中学校区に一つ以上公立保育園を残すよ、という言い方なんですけども、さらに少し条件をつけるとして、例えば、複数あるところについては、民間園が公立園の数を上回らないこととか、そういう考えもありますね。

公立園一つ残して全部を民営化するがいいのかとか、今は公立園の数が多いですが、最大でも公立と民間が半分ずつ、とか。公立と民間の地域的な偏りはどうかなどもあります。そういうバランスも含めて考えていくという部分も書かせていただいているんですけど。その辺はどうかな、ということも意見をお伺いしたいです。

(渡辺会長) 今の課長さんのお話について何かありましたら。なかなか難しく、どうやって考えていくか困ったときには鈴木裕子先生に、お願いしたいんですけど。

(鈴木委員) 基本的に例えば廃園にするとか、その新しいところが変わるっていうときには6年くらいかかるわけですよ。例えば、0歳児での子は卒園まで責任を持つ。2、3年先の話として民営化するのではなくて、今いる子どもたちが出たら、園が変わるんだよっていうぐらいのタームで考えないといけないと思います。

リスクっておっしゃいましたが、その地域と馴染めなくてすごくリスクを負ってしまうことがあると思うんですね。そうすると、建物の老朽化とか地域性とか、その縦ラインと横ラインを組み合わせるとどこからやっていくかっていう順位がある程度必然的についてくる場所はあると思うんですね。

他の市で民営化の仕事を何件かやらせていただいた時は、公募するとそこそこ来るんだなっていうことはわかりました。3園、4園と来たし、県外からも応募が来て、プレゼンさせていただくという感じでした。

あとは、公立でできないこと、というところも変わりますが、例えば病児保育とか、休日保育とか、そういうニーズを請負ってもらうっていうことも含めて民営化したときに、今度は場所が関わってくることもあるので、何とも言えませんが。

例えば名古屋市は中学校区に1個まで減らしていると思うんです。180ぐらいあったのを120くらいまで減らしていくという考え方。中学校区に1個残してそれが

エリア拠点になっていく。例えば福祉方面とか、発達支援とか、医療機関などいろいろなところにつないでいく拠点として公立を一つ残すような意味を持たせれば、一つは必要だということになるけど、二つの中学校区に1つでは駄目なのかといたら、そういった役割を持たせられれば、絶対に1中学校区に一つ残さなければいけないということもないのかなと思います。

今後20年ぐらいの中でどうなっていくのかということもあるし、先ほどおっしゃったこども園というのも、現状としては保育園がこども園になることはあまりなくて、幼稚園がこども園になっていくっていう形です。蒲郡さんはもともと公立幼稚園をお持ちじゃないので、なかなかそこは難しいかなと。今、民間さんに蒲郡に幼稚園持ってきて下さいって言ったら、あんまり手が上がらないんじゃないかなっていう気がします。保育園をこども園化して民営化するってことはありかなと思います。

民営化については、計算すると3から5ぐらいかなと思いますけど、何処というのはとても難しく、私は無理に1中学校区に1個残さなきゃいけないっていうよりも、二つの中学校区をくっつけるような考えも良いと思いますし、そこはちょっと柔軟に考えてもいいんじゃないかという気がします。

(岡田部長)

先生ありがとうございました。

今、委員の皆さん方にも民営化というのが突然出てきて、幾つがいいかと言われても、じゃあ比較材料はどうなんだ、民営化したらどういうふうなメリットがあってっていうところも示されないまま、ここで幾つと意見を出すのは難しいかなというふうに思います。

これは、来年とか5年以内とかそういった計画ではなくて、将来的な考え方でございます。この会議の中で一番決めていただきたいと思うのが、昔蒲郡市が民営化しようとしたときには、民営化は駄目だ、全部公立でやれというような議論もございました。今だと、民営化のほうがいいじゃないか、というようなご意見もいただいています。

そういった状況の中で、今後は民営化も当然検討材料に加えた上で、保育園の配置を考えていきなさい、というようなご結論がいただければ、実際に保育園を建て替えるなり統廃合する中で、市が一番望ましい形で民間に声をかけるという余力が残されますが、いや、今ある民間園以外は全部公立でやれ、というふうなご結論であればそういった方向に進まなければいけない。そうではなくて、今後は民営化も含めた中でこういった検討を進めていけばいいという、ご結論いただければ、それをここの記録に残していきたいなというふうに思います。

(渡辺会長)

それだったら考えやすいと思いますがどうでしょうか。

すべて公立保育園でないといけない、と考えられる方はいらっしゃいますか。

いろんな考え方があって、公立しかできないこともきっとあると思うので、そういうことは大事にして行って欲しいと思います。公立保育園のサービスの均衡化などは考えて行ってほしいですね。その中で、民営化、民間の風を入れていくというのは非常に大事なことはないかなと思います。アンケートを見させてもらおうと思います。皆さんいかがでしょうか。

公立保育園も残しながら、民営化の道も考えていくってということで、数については今後検討していただくっていう形ですかね。

それから、公立保育園も必ずしも中学校区に一つではなくって、もう少し大きく考えていってもいいのではないかと、そういう検討の余地があるのかな、ということですよ。

(事務局高橋) 資料では民営化の三つの要件ということで書かせていただきましたけども、今回ご意見いただきましたので、次回の資料につきまして、修正を加えたものをご用意させてもらってまたご意見いただけたら、というふうに思っております。

(渡辺会長) では、今日はここまでということにしたいと思います。

また次回、資料修正を加えたものを示していただけるということですので、また皆さんと考えてきていただきたいと思います。

それでは、議題の「(3) 令和2年度の会議の日程について」をお願いいたします。

### (3) 令和2年度蒲郡市子ども・子育て会議の日程について

●資料3 令和2年度蒲郡市子ども・子育て会議の日程について事務局白井から説明

(渡辺会長) ありがとうございます。1回追加されて、次は会議が12月14日の月曜日午後2時からですね。場所はどこですか。

(事務局白井) 303会議室です。

(渡辺会長) それでは、1回増えるということで皆さんよろしいでしょうか。ぜひ充実したものにしていきたいので、よろしくをお願いいたします。

### (4) その他

(渡辺会長) それでは、「(4) その他」に入ります。事務局さん何かありますか。

(事務局白井) その他の配布資料としまして「子育てコンシェルジュ便りNo.24」をお付けしていますのでどうかご確認ください。

(渡辺会長) ありがとうございます。

それでは、これで会議を、終了したいと思いますよろしいでしょうか。

ではこれで閉会いたします。次回は12月14日ですので、よろしくをお願いいたします。ありがとうございました。

以上